道

2021・7・21

通信 No 1644

オドリコソウ

先週は久しぶりの運営委員会でした。本日は先生方との意見交換会です。

≪団員状況≫

S1、6 人　S2,5 人　A1,7 人　A2,6 人　T1,5 人　T2,3 人　B1,6 人　B2,7 人　合計 45 人　団友 3 人

退団　Ｓ１細田　Ｓ２　鈴木（京）山田　Ａ１澤崎　Ａ２池内　Ｂ２山田

≪　加藤登紀子さんのレコード≫　（バス　福本　三朗）

加藤登紀子さんは言わずもがな、日本を代表する歌手の一人である。「おときさん」として親しまれ、「赤い風船」「知床旅情」「ひとり寝の子守歌」「百万本のバラ」など多くの歌が聴き手を魅了して離さない。

おときさんは 1943 年満州ハルビンに生を受けた。都立駒場高等学校にトップ合格、安保闘争で死亡した樺美智子さん（当時東大生）に影響を受けて、東京大学文学部西洋史学科へ。在学中にシャンソンコンクール優勝、「赤い風船」でレコード大賞新人賞を受賞。その後「ひとり寝の子守歌」と「知床旅情」はレコード大賞歌唱賞。1972 年学生運動リーダー藤本敏夫氏と獄中結婚し、三人の娘に恵まれた。次女は歌手 Yae。その後の活躍は皆さんご存じのとおり。2021 年 5 月日本訳詞家協会会長に就任。

父幸四郎氏は哈爾浜(ハルビン)学院※卒業後、南満州鉄道（＝満鉄）に入社、敗戦後家族ともども京都に引揚げた。その後仕事の関係で上京。ロシア料理店「スンガリー」（ハルビンを流れる松花江のこと）を創業、新橋・京橋・渋谷・青山などに店を拡げた。現在新宿東口と新宿三丁目の2店で営業している。

1971 年 5 月私の父が大学先輩である加藤氏宅を訪れた。その時おときさんが「こんにちは！」と挨拶。父は帰り際にレコード「加藤登紀子/ロシアのすたるじい」をサイン付きでもらってきた。ちょうど 50 年前のことである。半世紀経てもレコードは健在で、おときさんは 14 曲のロシア民謡をロシア語で、あるいは自らの訳詞で、聴く者にロシアを間近に感じさせてくれる。ロシア語を学び始めた私がロシア民謡に親しむきっかけともなった。

今から 15 年ほど前、私は幹事役として会社同僚数名率いて、青山の「スンガリー」を訪れた。美味しいロシア料理に舌鼓を打っていると、おときさんがステージに登場。喉の不調で、美声を聴くことはかなわなかったが、おときさん姉が素晴らしいバイオリン演奏を奏でてくれた。おときさんは私たちのテーブルに顔を出してくれた時、私は父親がいただいたレコードのことを話すと、おときさんは大変驚き・喜んでくれた。（そのレコードは我が家の“家宝”。メルカリで売れなくてホットしている。） 今在ること、起きていること、すべては“走馬灯”のごとく、時と言う空間を走り去っていく。ロシア民謡も永遠に歌い継がれていくに違いない・・・。

※哈爾浜(ハルピン)学院：　1920 年(大正 9 年)中華民国ハルピン市に設立された外務省所管の旧制専門学校（日露協会学校）で、1940 年国立大学へ。日露間の貿易を担う人材育成を標榜した。「東洋のシンドラー」として、ユダヤ人亡命に尽力した杉原千畝のほか、ロシア研究・ロシア語学者・教育者など多数を輩出。　（写真：おときさんサイン入りレコード）